

美化活動で生徒が頼られる存在になり共生社会の基盤が整う

文部科学大臣賞 秋田県立比内支援学校 たかのす校

秋田県北部、北秋田市鷹巣（たかのす）にある同校。森に囲まれた自然豊かなロケーションに佇み、小学部、中学部、高等部からなる支援学校として1977年に開校した。地域をフィールドに、地域とともに育ち、地域に感謝される学校をスローガンに掲げ、さまざまな環境美化活動を行っている。中でも、中学部が取り組む、通学路や周辺道路、老人介護施設などでのごみ拾いや清掃活動は、長年続く恒例行事として地域に定着。回収したごみは、計量、分別してから廃棄し、活動前と活動後の写真を撮影することで、生徒自身が取り組みの成果を実感できるように工夫を凝らしているのが特徴だ。時には、ガラスなど危険なごみも散乱しているが、生徒は経験的に学んで、環境への意識を高めている。

また、自分たちが使用している最寄りのバス停や駅舎でも、清掃に励み、季節の花々を植栽。そうした様子を見守る住民からは、感謝の言葉が寄せられている。自分たちの活動の結果に自信を深めた生徒は、一人暮らしのお宅や寺院などに出向いて、除草や除雪にも励む。いずれも、ごみが出る雪解け直後、雑草が伸びる夏、雪が固まる寒い冬など、住民が困るような時期に合わせて生徒が活動するために、地域からは自然と期待される存在となってきた。それが、やりがいに結びつき、ひいては地域の一員としての自覚を深めることにつながっている。

生徒にお茶の体験教室を開いている高昌山龍泉寺の住職、佐藤俊晃さんは、「お寺は、法事とかお葬式の時に来る場所という印象が強いですが、生徒さんたちが清掃活動に来てくれることで、敷居が下がり、来やすい場所になっているのはとてもありがたいと思っています」と感謝の気持ちを寄せる。

中学部ではこうした一連の取り組みを「みんなのためにプロジェクト」と命名。これからも、地域のためにできることを考え、地域のニーズを把握しつつ、生徒の実態に応じて、SDGsを見据えた取り組みを目指す構えだ。地域社会にとっては、障害を持つ人たちへの理解にもつながり、環境美化をツールにした、共生社会の基盤が着々と築かれている。

秋田県立比内（ひない）支援学校 たかのす校

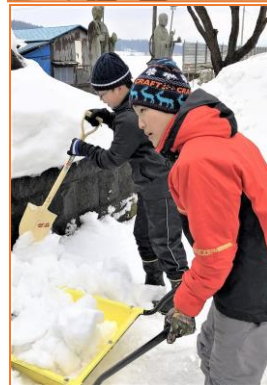
学校長：鎌田 裕之（かまだ ひろゆき）

児童・生徒数：42名(2021年11月末現在)

住所：秋田県北秋田市七日市字家向49の内

電話：0186-66-2128

アクセス：大館能代空港からクルマで約15分



上：ポイ捨てごみを回収する様子、2番目左：生徒の活動で地域のごみは減少、右：最寄り駅に花のプランターを設置、3番目左：寺院で励む除雪作業、右：下級生に苗植えを指導する生徒、下：太鼓を披露しながら地域文化を継承